第２節　　社　　会

第１　本資料の活用について

１　作成の基本的な考え方

・　中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説（社会編）及び埼玉県中学校教育課程編成要領を踏まえ、学習指導・評価計画を作成する際の参考となるよう、社会科における指導計画の作成から学習評価の考え方、実際までを系統的かつ具体的に取り上げて作成した。
・　教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出すことをねらい、「学校教育目標の実現をねらった教育課程の編成、適切な実施・評価、必要に応じた改善」の一連のサイクル（カリキュラム・マネジメント）を具体的に示している。

２　取り上げた内容

第１　本資料の活用について
第２　社会科における学習指導と評価
　１　育成を目指す資質・能力の三つの柱について
　２　「社会的な見方・考え方」を働かせる指導のポイントについて
　３　社会科における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について
　４　単元など内容や時間のまとまりを見通した指導計画（単元における問いの構造）について
　５　評価の改善点について
　６　各観点の評価について
　７　観点別学習状況の評価の観点について
　８　３分野の事例について
第３　指導と評価の計画及び改善
　＜事例１＞地理的分野の実践事例
　＜事例２＞歴史的分野の実践事例
　＜事例３＞公民的分野の実践事例
第４　社会科における学習評価の総括例
　１　単元における観点ごとの評価の総括例
　２　学期末及び学年末における観点ごとの評価の総括例

指導計画作成の留意事項

編成要領（Ｐ49･50）で示された「指導計画作成に当たっての留意すべき事項」との関連についても本資料で示している。

⑴　「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた生徒への指導」の視点
⑵　「主体的・対話的で深い学び」の視点
⑶　「教科等横断的」な視点
⑷　「社会に開かれた教育課程」の視点
⑸　「道徳教育の充実」の視点
⑹　「言語活動の充実」の視点
⑺　「学校教育の情報化」の視点
⑻　「作業的で具体的な体験を伴う学習の充実」の視点
⑼　「現実の課題に関する社会的事象の取扱い」の視点
⑽　「政治及び宗教に関する事項の取扱い」の視点
⑾　「小・中・高の内容の関連を図る」の視点

３　本資料の活用に当たって配慮すること

３-１　「社会的な見方・考え方」を働かせること　※編Ｐ49等参照
３-２　指導計画作成に当たっての留意すべき事項を参考にすること　※編Ｐ49等参照
３-３　学習評価を行うに当たり以下の事項に留意すること

・　単元のまとまりを意識して、指導・評価計画に即した学習評価を行う。
・　１単位時間ごとの目標を明確にし、具体的な生徒の姿や表現内容を想定し、学習評価を行う。
・　生徒や学校、地域の実態に合わせた指導・評価計画を基に、課題を追究したり解決したりする活動を展開する中で学習評価を行う。

４　学力・学習状況調査等の活用について

これまでの全国学力・学習状況調査では、「情報を整理し、内容をとらえること」や「根拠を明確にして自分の考えをもつこと」が課題となっている。また、県学力・学習状況調査では、「主体的・対話的で深い学び」が「非認知能力」の向上や「学習方略」の改善につながり、学力を向上させると分析している。こうした分析を受けて、社会科の授業においても、「主体的・対話的で深い学び」を通して、①「複数の資料から情報を整理し、内容を理解する取組」、②「様々な資料に基づいて、自分の意見をまとめる取組」をさらに充実させることが大切である。

第２　社会科における学習指導と評価

１　育成を目指す資質・能力の三つの柱について

社会科において育成を目指す資質・能力は、目標において次のように示されている。

「社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。」

(1)	(2)	(3)
我が国の国土と歴史，現代の政治，経済，国際関係等に関して理解するとともに，調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。	社会的事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

２　「社会的な見方・考え方」を働かせる指導のポイントについて

「社会的な見方・考え方」を働かせるポイントとして、課題（問い）を設定し、その課題（問い）の追究のための枠組みとなる多様な視点に着目させ、課題を追究したり解決したりする活動が展開されるように学習過程を設計する。

広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる
平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成

社会的事象の
地理的な見方・考え方

【視点】
社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉える

【方法】
地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付ける

【地域に関わる視点を生かした構想に向かう「問い」の例】
私たちの住む地域の地形や気候、産業の様子、人口分布や人口構成、交通網などの地方的特殊性に着目すると、私たちの地域はどのようなまちづくりを行っていくべきだろうか。

【獲得する知識の例】
地域には、地域的特色を踏まえたよりよい姿が求められること。

社会的事象の
歴史的な見方・考え方

【視点】
社会的事象を、時期、推移などに着目して捉える

【方法】
類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付ける

【諸事象の比較に関わる視点を生かした考察に向かう「問い」の例】
政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色について前の時代との共通点や相違点に着目すると、中世とはどんな時代だったといえるか説明しよう。

【獲得する知識の例】
中世は武家政権が成立し、その支配が広まった。アジアとの交易が行われ、諸産業が発達し都市や農村における自治的な仕組みが生まれた。そして現代に結び付く文化が見られるようになった時代であること。

現代社会の見方・考え方

【視点】
社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉える

【方法】
よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付ける

【社会に見られる課題の解決を構想する視点を生かした「問い」の例】
世界平和と人類の福祉の増大のためにどのようなことができるか、対立と合意、効率と公正、持続可能性等の視点で考え、議論しよう。

【獲得する知識の例】
地球環境、資源エネルギー問題、貧困などの地球規模の課題は、経済的、政治的な対立を乗り越え、持続可能性のある世界的な視野で経済的、技術的な協力を行っていくことが大切であること。

※　各分野の「問い」の例については、「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（答申）別添資料3－5及び編成要領を参照。

３　社会科における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも１単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。単元など内容や時間のまとまりの中で、例えば、「主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか」、「対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか」、「学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか」、といった視点で授業改善を進める。

教材や教育環境の充実
- ＩＣＴの活用
- 新聞や公的機関が発行する資料等の活用
- 博物館や資料館、図書館などの公共施設の活用

「主体的な学び」の視点
- 学習課題を把握し、その解決への見通しをもつ。
- 単元等を通した学習過程の中で動機付けや方向付けを重視する。
- 学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定する。

「対話的な学び」の視点
- 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手がかりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ、深める。
- 実社会で働く人々が連携・協働している社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりする活動を充実する。

「深い学び」の視点
- 「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動を取り入れる。
- 教科・科目及び分野の特質に根ざした追究の視点と、それを生かした課題（問い）を設定する。
- 諸資料等を基にして多面的・多角的に考察するようにする。
- 社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想（選択・判断）、論理的な説明、合意形成や社会参画を視野に入れた議論を促す。
- 主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、主として社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習過程を設計する。

４　単元など内容や時間のまとまりを見通した指導計画（単元における問いの構造）について

指導計画は、学習指導要領の「１　目標」及び「２　内容」に示された資質・能力を育成できるよう、生徒や学校、地域の実態を踏まえて作成する。その際、学習内容のまとまりを見いだし、適切に設定することが大切である。また、「社会的な見方・考え方」を働かせる学習課題（問い）を設定し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。そこで重要となるのが「単元を貫く問い」である。「単元を貫く問い」とは、単元を通して追究する問いであり、各次（小単元）の問い、１単位時間の課題を追究し解決していくことで、この問いに答えることができるというものであり、生徒に単元を通した学習の見通しをもたせることができる。「単元を貫く問い」と各次（小単元）の問い、１単位時間の課題の関係を、事例２を基に以下に示す。

【単元を貫く問い】
中世社会の特色はどのようなものであり、どのように展開し近世へつながったと考えますか

【小単元１の問い】
武士はどのように成長していったのだろう

【小単元２の問い】
東アジアとの交流は、社会にどのような影響を与えたのだろう

【小単元３の問い】
なぜ、室町文化は多くの人々に広まり、現代につながっているのだろう

【第１時の課題】
室町時代はどのような特色をもった文化が展開したのだろうか

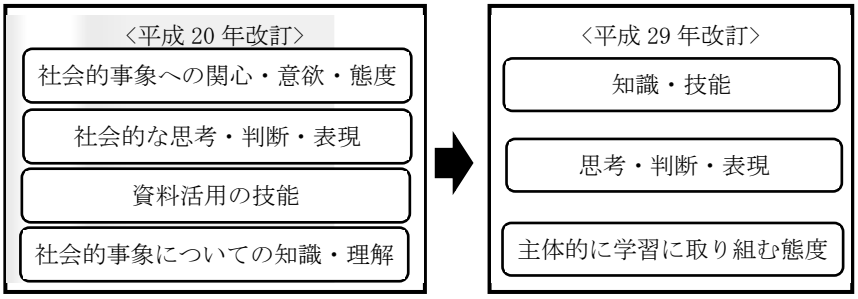
【第２時の課題】
室町時代はなぜ様々な職業が生まれたのだろうか

【第３時の課題】
惣村や自治都市はどのように自治を行っていたのだろうか

【第４時の課題】
応仁の乱で人々はどのように生活を守ったのだろうか

５　評価の改善点について

平成29年改訂で、学習指導領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、社会科の観点別学習状況の評価の観点については、４観点から３観点に整理されている。



６　各観点の評価について

６-１　「知識・技能」について

「知識」に関しては、社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習過程を設計する。

「技能」に関しては、学習指導要領解説Ｐ186に「参考資料３　社会的事象等について調べまとめる技能」として整理されている。

これらのことを踏まえ、単元の目標及びその評価規準においても、細かな事象を羅列してその習得のみを求めることのないよう留意する。

６-２　「思考・判断・表現」について

「思考・判断・表現」に関しては、各単元において、それぞれの「見方・考え方」を視野に、具体的な「視点」等を組み込んだ評価規準を設定することが重要である。単元を見通した「問い」を設定し、「社会的な見方・考え方」を働かせることで、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする学習を一層充実させることが可能となる。

６-３　「主体的に学習に取り組む態度」について

「主体的に学習に取り組む態度」については、従前の学習指導要領から一貫して重視されてきた、課題の発見、解決のための「思考力，判断力，表現力等」の育成とも相まって、現実の社会的事象を扱うことのできる社会科ならではの「主権者として，持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」が必要である。この教科の特性を踏まえつつ、この観点については、単元を越えて評価規準を設定するなど、ある程度長い区切りの中で評価することも考えられる。

７　観点別学習状況の評価の観点について

７-１　評価の観点及びその趣旨について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	我が国の国土と歴史，現代の政治，経済，国際関係等に関して理解しているとともに，調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。	社会的事象について，国家及び社会の担い手として，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

７-２　分野別の評価の観点の趣旨について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野	我が国の国土及び世界の諸地域に関して，地域の諸事象や地域的特色を理解しているとともに，調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，位置や分布，場所，人間と自然環境との相互依存関係，空間的相互依存作用，地域などに着目して，多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。	日本や世界の地域に関わる諸事象について，国家及び社会の担い手として，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。

歴史的分野	我が国の歴史の大きな流れを，世界の歴史を背景に，各時代の特色を踏まえて理解しているとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	歴史に関わる事象の意味や意義，伝統と文化の特色などを，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり，歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。	歴史に関わる諸事象について，国家及び社会の担い手として，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
公民的分野	個人の尊厳と人権の尊重の意義，特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し，民主主義，民主政治の意義，国民の生活の向上と経済活動との関わり，現代の社会生活及び国際関係などについて，個人と社会との関わりを中心に理解を深めているとともに，諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり，現代社会に見られる課題について公正に判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。	現代の社会的事象について，国家及び社会の担い手として，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

7-3　「内容のまとまり」ごとの評価規準の作成手順について

7-3-1　中学校社会科の「内容のまとまり」

中学校社会科では学習指導要領の「２　内容」の中項目をもって「内容のまとまり」としている。「内容のまとまり」は、以下のとおりである。

〔地理的分野〕	A 世界と日本の地域構成	(1) 地域構成
	B 世界の様々な地域	(1) 世界各地の人々の生活と環境
	B 世界の様々な地域	(2) 世界の諸地域
	C 日本の様々な地域	(1) 地域調査の手法
	C 日本の様々な地域	(2) 日本の地域的特色と地域区分
	C 日本の様々な地域	(3) 日本の諸地域
	C 日本の様々な地域	(4) 地域の在り方
〔歴史的分野〕	A 歴史との対話	(1) 私たちと歴史
	A 歴史との対話	(2) 身近な地域の歴史
	B 近世までの日本とアジア	(1) 古代までの日本
	B 近世までの日本とアジア	(2) 中世の日本
	B 近世までの日本とアジア	(3) 近世の日本
	C 近現代の日本と世界	(1) 近代の日本と世界
	C 近現代の日本と世界	(2) 現代の日本と世界
〔公民的分野〕	A 私たちと現代社会	(1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色
	A 私たちと現代社会	(2) 現代社会を捉える枠組み
	B 私たちと経済	(1) 市場の働きと経済
	B 私たちと経済	(2) 国民の生活と政府の役割
	C 私たちと政治	(1) 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則
	C 私たちと政治	(2) 民主政治と政治参加
	D 私たちと国際社会の諸課題	(1) 世界平和と人類の福祉の増大
	D 私たちと国際社会の諸課題	(2) よりよい社会を目指して

7-3-2　学習指導要領の中項目を基に、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する

以下、地理的分野　C日本の様々な地域(1)「地域調査の手法」の記述を例に評価規準の作成手順を示す。

内容のまとまり　　C日本の様々な地域(1)「地域調査の手法」

内容　　場所などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
ア　次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 観察や野外調査，文献調査を行う際の視点や方法，地理的なまとめ方の基礎を理解すること。 (イ) 地形図や主題図の読図，目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けること。	イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。 (ア) 地域調査において，対象となる場所の特徴などに着目して，適切な主題や調査，まとめとなるように，調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し，表現すること。	※学習指導要領の「２内容」には，「学びに向かう力，人間性等」について関わる事項は示されていない。

内容のまとまりごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を<u>理解している</u>。 ・地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を<u>身に付けている</u>。	・地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に<u>考察し、表現している</u>。	・地域調査の手法について、<u>よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている</u>。

※<u>下線部</u>は、【観点ごとのポイント】（参Ｐ31 参照）を踏まえて、語尾を変えて作成した。

各観点の評価規準作成の留意事項

●「知識・技能」
　生徒が「…理解している」かどうか、「…身に付けている」かどうかの学習状況として表す。

●「思考・判断・表現」
　生徒が「…考察（、構想）し、表現している」かどうかの学習状況として表す。

●「主体的に学習に取り組む態度」
　「分野別の評価の観点及びその趣旨」における「主体的に学習に取り組む態度」を基に作成する。
　※「評価の観点及びその趣旨」の冒頭に示された「…について」の部分は、この「内容のまとまり」における学習内容を当てはめることとし、「よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究（、解決）しようとしている（地理的分野・歴史的分野）」か、「現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている（公民的分野）」かどうかの学習状況として表す。

7-3-4　社会科における学習評価の進め方について

中学校社会科においては、原則として学習指導要領上の中項目である「内容のまとまり」ごとに作成した評価規準を基に、各分野の項目構成の特色を踏まえた上で、「単元の評価規準」を作成することになる。ただし、「内容のまとまり」の一部を単元としたり、「内容のまとまり」を超えて単元としたりすることも考えられ、各学校で指導計画・評価計画を作成する際に工夫することが求められる。以下、学習指導と評価の進め方について、「内容のまとまり」の一部を単元として構成した例として、歴史的分野　B近世までの日本とアジア(1)古代までの日本(ア)世界の古代文明や宗教のおこりを基に説明する。

1　単元を設定する
- 　地理的分野や歴史的分野においては、「内容のまとまり」以下の小項目等（地理的分野①～⑥、歴史的分野(ｱ)～(ｶ)など）を単元として設定することができる。
- 　公民的分野においては、A⑴「私たちが生きる現代社会と文化の特色」など、内容のまとまりを単元として設定することが適切であると考えられる。

2　単元の目標を作成する
- 　学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 　生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。

○目標　課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
　ア　次のような知識を身に付けること。
　　(ｱ) 世界の古代文明や宗教のおこり（以下省略。詳細は、解Ｐ94 を参照。）

3　単元の評価規準を作成する
- 　「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえて作成する。

○単元の評価規準の例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。	・古代文明や宗教が起こった場所や環境に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	・世界の古代文明や宗教のおこりについて、よりよい社会の実現を視野にそこに見られる課題を主体的に追究しようとしている。

4　「指導と評価の計画」を作成する
- 　２、３を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- 　どのような評価資料（生徒の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と評価するか考えたり、「努力を要する」状況（Ｃ）への手立て等を考えたりする。

5　授業を行う
- 　４に沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

6　観点ごとに総括する
- 　集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（Ａ～Ｃ）を行う。

7-3-5　「学習改善につなげる評価」と「評定に用いる評価」について
（総則では、「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」。Ｐ７参照）

学習評価の役割は、生徒に学習状況の診断を伝え、改善の方向性を示すと共に、教師の指導改善に役立てることである。また、学習評価は、妥当性や信頼性が確保されていることが重要である一方、評価のデータを集積するために、授業において必要以上に時間を費やしたり、授業後に、教師に過重な負担を強いたりするものであってはならない。単元の評価計画の作成に当たっては、これらのことに十分に留意する必要がある。

評価計画の作成においては、観点別学習状況の評価や評定に用いないものの、学習状況を見取り、生徒の成長を認め励ますとともに必要に応じて指導、支援を行う「学習改善につなげる評価」（●）と、単元全体を見通し、観点別学習状況の評価や「評定に用いる評価」（○）を位置付ける。

８　３分野の事例について
○地理的分野　地域の地理的な諸課題の解決に向けて、既習事項を生かし、探究的に考察、構想し、表現する力の育成をねらった事例
○歴史的分野　単元を通して学びを振り返るワークシートを活用することで、主体的に学習に取り組む態度の育成をねらった事例
○公民的分野　「起業」を柱にした単元の再構成と、思考力・判断力・表現力の育成をねらった事例

第３　指導と評価の計画及び改善

＜事例１＞地域の地理的な諸課題の解決に向けて、既習事項を生かし、探究的に考察、構想し、表現する力の育成をねらった事例
※本事例は、地域の在り方について、ＩＣＴを活用して、「社会参画」の視点から探究的に地理的分野の学習をまとめていく実践である。
【内容のまとまり】　地理的分野　Ｃ日本の様々な地域　⑷地域の在り方
【単元名】　地域の在り方

１　単元名　地域の在り方

２　本単元を構成するにあたって（指導と評価の計画）

⑴　地域の将来像を構想する「地域の在り方」

従前の「身近な地域の調査」では「市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法を身に付けさせること」を主なねらいとしており、「社会参画の視点を取り入れた探究型学習を地理的分野の学習のまとめとして行うこと」が期待されていた。今回の改訂においては、内容構成が見直され、生徒の生活舞台を主要な対象地域とし、観察や野外調査、文献調査などの実施方法を学ぶ「地域調査の手法」と、地域の将来像を構想する「地域の在り方」の二つの中項目に再構成された。

よって、本単元においては、「地域調査の手法」を生かした地域の「構想」に主眼を置いて単元構成を行うこととなる。「空間的相互依存作用、地域などに関わる視点に着目して、地域の在り方を地域的特色や地域の課題と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成すること」が本単元のねらいである。

⑵　主体的・対話的で深い学びを促すＩＣＴの活用

本単元においては、様々な場面でＩＣＴの活用が可能である。地域的特色や地域の課題を把握するにあたり、総務省統計局の「政府統計の総合窓口（e-Stat)」や、経済産業省と内閣官房が提供する「地域経済分析システム（RESAS)」を活用し、地域の現状や課題の把握、一般的共通性や地方的特殊性、その地域の強みや弱みの分析等を行うことができる。また、対象地域の様子を調べるために「地理院地図」や「今昔マップ」、「Google Map」、「Google ストリートビュー」等から得られる地図情報を地図化する活動も考えられる。そして、課題の解決に向けて外部人材の協力をいただく際には、教師と担当の生徒で実際に出向いてその様子を録画・録音し、発表の際に使用するといった方法以外にも、ビデオ会議システム（「Zoom」等）を用いてインタビューを実施することもできる。さらに、構想した成果の発表ではプレゼンテーションソフトを使って発表を行ったり、その様子を撮影して、協力していただいた方々に見ていただき、さらにアドバイスをもらったりすることも考えられる。

⑶　地域社会の形成に参画する意識を育む家庭学習の活用

本単元においては「Ⅰ課題の把握、Ⅱ対象地域の把握、Ⅲ課題の要因の考察、Ⅳ課題の解決に向けた構想、Ⅴ構想の成果発表」という学習展開を想定した。そこで、事前に居住する自治体の広報紙や商工会議所だより、市町村史等を用いて、地域の実態や課題解決のための取組を調べておくことで、地域がもつ課題やたどってきた変遷などを把握しやすくなり、自分が住む身近な地域の課題として学習への意欲を高めることができる。また、C⑴「地域調査の手法」での既習事項を踏まえ、地域の課題を調査する一環として現地調査を行う場合は、ワークシートを基に家庭学習として現地調査を行うこともできる。

３　単元の目標と評価規準（※評価規準は、参Ｐ108参照。）

・地域の実態や課題解決のための取組、地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解する。
・地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
・地域の在り方について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

4　単元の指導計画・評価計画

指導と評価の展開例（８時間）　●「学習改善につなげる評価」　○「評定に用いる評価」

次	学習活動等	評価の観点 知	評価の観点 思	評価の観点 態	評価規準（評価方法）
第一次 Ⅰ課題の把握（1時間）	【ねらい】北本市の現状を把握し、地域の在り方を追究するテーマを設定することで、課題解決への見通しをもたせる。 （導入の時点から学習の流れやレポートの出来上がりの姿を生徒に予告し、学習の意味や意義の周知とともに生徒自身の当事者性を十分に引き出しておくことが大切である。） 単元を貫く問い「北本市を活性化させるためにはどうすればよいだろう。」 ・地理的分野で学習してきた、世界や日本の様々な地域に見られる課題の視点や家庭学習で調べた広報紙等の情報を参考にして、北本市にはどのような課題があるかを把握し、追究するテーマを設定する。			●	●実際の北本市の様子に着目し、身近な地域に関する様々な事象から、問いを見いだしたり、見通しを立てたりしている。（ワークシート・発言）
第二次 Ⅱ対象地域の把握（2時間）	【ねらい】北本市の実態や課題解決のための取組を理解させる。 第１時の課題「北本市にはどのような課題があるだろう。」	●			●北本市の実態を理解している。（ワークシート）
	第２時の課題「北本市は人口の減少を解決するためにどのような取組を行っているだろう。」 ・学校図書館や市立図書館の文献調査、インターネットを使った調査、電話による聞き取り調査、観察や野外調査など「地域調査の手法」で学んだことを生かして調査計画書を作成する。 ・調査を行う。 ・市の抱える課題の実態を把握する。	●			●課題解決のための取組を理解している。（ワークシート）
第三次 Ⅲ課題の要因の考察（1時間）	【ねらい】北本市の課題の要因を考察させる。 第１時の課題「北本市は子育て世代への事業に力を入れているのに、なぜ、人口は減り続けているのだろう。」 ・調査結果を分析したり、「政府統計の総合窓口（e-Stat）」や「地域経済分析システム（RESAS）」などから地理情報を入手・活用し、類似の課題が見られる国内外の他地域と比較したり、関連付けたりする活動を通して課題の要因を考察する。		●		●課題の要因について多面的・多角的に分析し、文章や地図、統計などを用いて、その課題の要因に着目している。（ワークシート）

【北本市の課題の例】
①「人口の減少」（人口の移動）、②「消費の低迷」（産業の転換）、③「道路網の拡張」（流通の変化）、④「宅地開発や工場建設」（自然環境の保全）、⑤「集中豪雨による冠水」（防災）　等

Ｐ40 指導計画作成の留意事項(2)

Ｐ40 指導計画作成の留意事項(9)

【ＩＣＴの活用】「地理院地図」や「今昔マップ」等の利用。

【教科横断】総合的な学習の時間での職場体験で発見した地域の課題なども参考にする。

Ｐ40 指導計画作成の留意事項(3)

博学連携　市立図書館の司書の方に来校してもらい、具体的な文献の紹介や、資料の探し方を教えてもらう活動も考えられる。

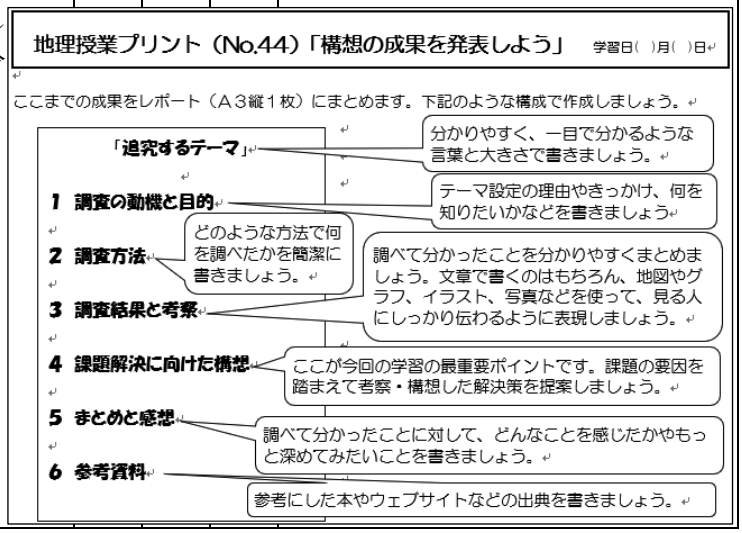
Ｐ40 指導計画作成の留意事項(4)

【ＩＣＴの活用】「Google Map」や「Google ストリートビュー」等の利用。

【家庭学習】家庭のデバイスが使用できる場合は事前にサイトを紹介し、操作に慣れさせておくと授業がスムーズである。

【ＩＣＴの活用】地理情報システムを用いて、多面的・多角的な分析を行う。（「e-Stat」、「RESAS」等）

第四次 Ⅳ課題の解決に向けた構想（2時間）	【ねらい】北本市の地域的な課題の解決策を考察させたり、構想させたりする。				
	第１時の課題「北本市と同じような課題を抱える地域ではどのような解決策を実施しているだろう。」 ・課題の要因を踏まえて、これまでの学習内容を振り返ったり、類似の課題を抱える他の地域の取組や先進的な取組を行っている地域を参考に考察・構想したりする。		●		●持続可能性に着目して、地域が抱える課題の解決策を考察・構想している。（ワークシート）
	第２時の課題「北本市に住み続けたいと思えるまちにするにはどうしたらよいだろう。」 ・北本市の実態に合うように吟味した解決策を、持続可能性を意識しながら考察・構想する。			●	●粘り強く考察・構想したり、学習の見通しを基に、自らの学習を工夫・調整したりしながら主体的に取り組んでいる。（振り返りシート）
第五次 Ⅴ構想の成果発表（2時間）	【ねらい】単元を貫く問いに戻り、北本市の課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解させる。また、北本市の地域的な課題の解決策について根拠に基づいて個人の意見を述べたり、多様な意見を集団として集約させたりすることで、本単元の学習を振り返らせる。				
	第１時の課題「北本市を活性化させるためにはどうすればよいだろう。」 ・「単元を貫く問い」を確認し、調査結果や課題の考察を踏まえ構想した成果をレポートにまとめる。 【家庭学習】作成にあたっては、家族や地域の方に聞きながらまとめる。 P40 指導計画作成の留意事項(2)	○	○		○北本市の実態や課題解決のための取組、地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解している。（レポート） ○地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、分かりやすく表現している。（観察・レポート）
	第２時の課題「遠い将来も北本市を活性化し続けるには、どうすればよいだろう。」 ・レポートを基に分かりやすく、説得力ある発表を行う。 ・発表後、意見交換や議論をして、振り返りを行い、主権者として地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度を育み、公民的分野の学習への意欲を喚起する。 授業中のクラス内での発表だけでなく、学校公開や授業参観等に合わせてレポートを掲示して、意見や感想を書いてもらうといった発表の工夫もある。			○	○よりよい社会の実現を視野に、地域で見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。（振り返りシート）



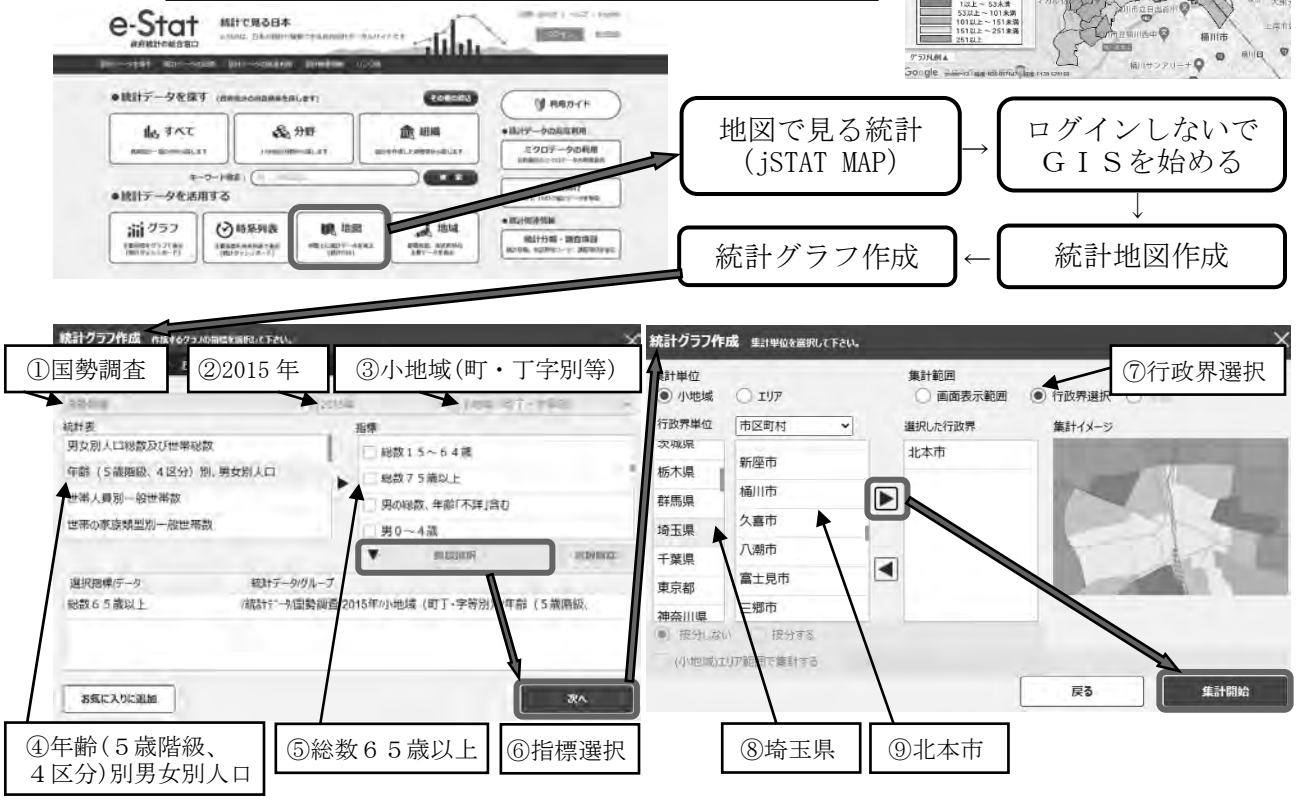
5　指導と評価にあたって

(1)　指導の実際

ア　総務省統計局の「政府統計の総合窓口(e-Stat)」の活用

市区町村、小地域（町丁字）、地域メッシュなどの地域で提供されている統計データ（一部）を、地図上で表示すると地理的な分析ができ、地域の実態の把握や分析が簡単に行える。

【活用例】**「北本市の字（あざ）ごとの高齢化率を表す図」**の作成例



イ　「地域経済分析システム（RESAS：リーサス)」の活用

産業構造や人口動態、人の流れなどのビッグデータ（経済産業省と内閣官房が提供）を集約し、可視化できる。

【活用例】**「北本市の産業構造図」と「昼間人口・夜間人口」**のグラフの作成例

(2) 評価の実際

ア　知識・技能

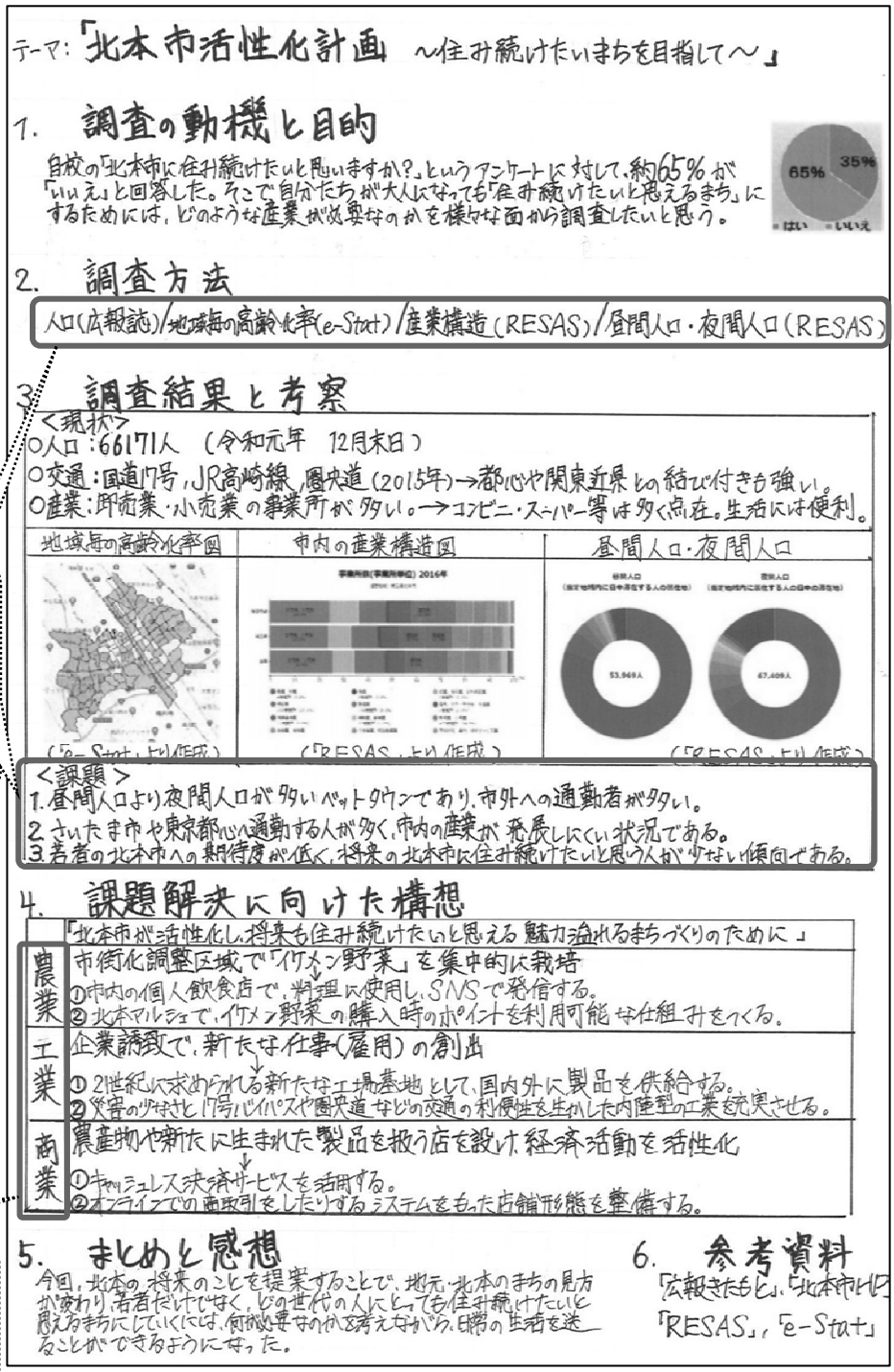
レポートの「調査方法」、「調査結果と考察」から評価する。追究するテーマにふさわしい手法を用いて調査をしているか、地域の実態や課題解決のための取組を理解しているか、課題解決に向けて考察、構想したことをまとめる手法を適切に理解しているかについて評価する。

＜B評価の例＞
複数の方法で調査を行って、北本市の実態について把握し、その課題の要因を複数の資料を用いて、自らの考察を示しているが、既習の「北本市の課題解決のための取組」を踏まえていないことから（B）と評価することが適当である。

イ　思考・判断・表現

レポートの「課題解決に向けた構想」から評価する。地域の在り方や将来像について、持続可能性などに着目し、多面的・多角的に考察、構想し、表現しているかを評価する。

＜B評価の例＞
北本市における課題を解決するための構想として、農業、工業、商業などの複数の産業面から多面的に考察しているが、若者や生産者などの一部の立場の人からの視点に偏って考察していることから、(B)と評価することが適当である。


テーマ：「北本市活性化計画　～住み続けたいまちを目指して～」

1. 調査の動機と目的

自校の「北本市に住み続けたいと思いますか？」というアンケートに対して、約65%が「いいえ」と回答した。そこで自分たちが大人になっても「住み続けたいと思えるまち」にするためには、どのような産業が必要なのかを様々な面から調査したいと思う。

2. 調査方法

人口（広報誌）／地域毎の高齢化率（e-Stat）／産業構造（RESAS）／昼間人口・夜間人口（RESAS）

3. 調査結果と考察

＜現状＞
○人口：66171人（令和元年　12月末日）
○交通：国道17号、JR高崎線、圏央道（2015年）→都心や関東近県との結び付きも強い。
○産業：卸売業・小売業の事業所が多い。→コンビニ・スーパー等は多く点在。生活には便利。

地域毎の高齢化率図（「e-Stat」より作成）
市内の産業構造図（「RESAS」より作成）
昼間人口・夜間人口（「RESAS」より作成）

＜課題＞
1. 昼間人口より夜間人口が多いベットタウンであり、市外への通勤者が多い。
2. さいたま市や東京都心へ通勤する人が多く、市内の産業が発展しにくい状況である。
3. 若者の北本市への期待度が低く、将来の北本市に住み続けたいと思う人が少ない傾向である。

4. 課題解決に向けた構想

「北本市が活性化し、将来も住み続けたいと思える魅力溢れるまちづくりのために」

農業：市街化調整区域で「イケメン野菜」を集中的に栽培
①市内の個人飲食店で、料理に使用し、SNSで発信する。
②北本マルシェで、イケメン野菜の購入時のポイントを利用可能な仕組みをつくる。

工業：企業誘致で、新たな仕事（雇用）の創出
①21世紀に求められる新たな工場基地として、国内外に製品を供給する。
②災害のリスクと17号バイパスや圏央道などの交通の利便性を生かした内陸型の工業を充実させる。

商業：農産物や新たに生まれた製品を扱う店を設け、経済活動を活性化
①キャッシュレス決済サービスを活用する。
②オンラインでの商取引をしたりするシステムをもった店舗形態を整備する。

5. まとめと感想

今回、北本の将来のことを提案することで、地元・北本のまちの見方が変わり、若者だけでなく、どの世代の人にとっても住み続けたいと思えるまちにしていくには、何が必要なのかを考えながら、日常の生活を送ることができるようになった。

6. 参考資料

「広報きたもと」、「北本市ホームページ」、「RESAS」、「e-Stat」

＜「e-Stat」や「RESAS」を活用したレポートの例＞

ウ　主体的に学習に取り組む態度

	学習改善につなげる評価	評定に用いる評価
自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況	毎時間、身近な地域の実態を意識させ、生徒の学習状況を確認し、適切な助言を行う。（第一次～第四次）	毎時間、単元を貫く問いに対する気付きや発見を文章で表記しているかを見取って評価する。（第五次）
課題の解決やよりよい社会の実現に向けて主体的に追求、解決しようとする態度	単元の導入時点から、課題解決に向けた見通しをもたせ、学習の意味や意義を周知し、生徒自身の当事者意識を引き出す。（第一次～第四次）	単元のまとめの発表会で、既習事項を活用したり、よりよい社会の実現を視野に課題を追求、解決しようとしたりしているかを基に行う。（第五次）

＜事例２＞単元を通して学びを振り返るワークシートを活用することで、主体的に学習に取り組む態度の育成をねらった事例
※本事例は、我が国の歴史の大きな流れを理解するために、「単元を貫く問い」を設定し探究活動を通して学習を進めていく実践である。
【内容のまとまり（中項目）】　歴史的分野　Ｂ近世までの日本とアジア　⑵中世の日本
【小単元名】　㈠　民衆の成長と新たな文化の形成

1　単元名　中世の日本

2　本単元を構成するにあたって（指導と評価の計画）

⑴　単元計画を作成する際の工夫～歴史について考察する力や説明する力の一層の重視～

時代を大観し表現する活動について、前回の平成20年改訂では、内容の⑴ウにおいて示されていたが、今回の改訂では、各項目のイ㈠に、「各時代を大観して時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現」する学習活動が明示された。時代を大観し表現する活動として、入試問題（令和２年度埼玉県公立高校学力検査「社会」大問３の問４）を参考にする。

問４　Ⅳの時代（室町時代）における社会や経済の様子を述べた文として正しいものを，次のア～エの中から一つ選び，その記号を書きなさい。
ア　豪族が支配していた土地と人々とを，公地・公民として国家が直接支配する方針が示された。
イ　惣とよばれる自治組織がつくられ，農業用水路の建設や管理，燃料や飼料をとる森林の利用や管理などについての村のおきてが定められた。
ウ　人々は，口分田の面積に応じて租を負担し，このほかに一般の良民の成人男子には，布や特産物を都まで運んで納める調，庸などの税や，兵役の義務が課せられるようになった。
エ　近畿地方の進んだ農業技術が各地に広まり，農具では，田畑を深く耕せる鉄製の備中ぐわや，千歯こきなどが使われるようになって，作業の能率や生産力が上がった。

これは、飛鳥・奈良・室町・江戸の四つの時代の様子を述べた文で、この中から室町時代の様子を選ぶには「各時代を大観」する授業を意識して行う必要がある。そこで、単元計画とその評価に工夫が必要となる。単元を計画する際、「各時代を大観」するのに効果的な方法として、中項目全体を単元として計画することと、「単元を貫く問い」の設定が効果的である。そこで、中項目⑵中世の日本を例に指導と評価の工夫を行った。

⑵　「単元を貫く問い」の解決へと導くワークシートの工夫

生徒が自らの学習を評価する手立てとして、ポートフォリオ形式のワークシート（以下、「社会科学びの地図」）を作成する。「社会科学びの地図」は内容のまとまりの振り返りに用いる「単元の社会科学びの地図」と、小さなくくりとしての振り返りに用いる「小単元３社会科学びの地図」の二種類を用意する。

生徒は、「単元の社会科学びの地図」を活用して学習を整理し振り返り「各時代の大観」を行う。また、「小単元３社会科学びの地図」を活用して、自身の初発の考えから毎時間の学習での成果を通して自身の変容を自覚することができる。

この二種類の「社会科学びの地図」を活用して、効果的に生徒の学習改善に生かす評価を行うとともに、教師の授業改善にも生かすことができる。

3　単元の目標と評価規準

⑴　単元の目標（略）　※解Ｐ99参照
⑵　単元の評価規準（略）　※参Ｐ111参照

4　単元の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

⑴　指導計画・評価計画の作成について

生徒が活用する「単元の社会科学びの地図」は生徒を評価するだけでなく、教師が指導計画

を作成する際にも活用できる。生徒の実態に合わせた単元構成の工夫・改善につながるだけでなく、指導と評価の一体化にもつながる。ここでは歴史的分野の目標にある「我が国の歴史の大きな流れを捉えさせる」ことをねらい、「単元の社会科学びの地図」を活用し単元の指導計画を作成する手順を示した。

育成すべき資質・能力(1)～(3) の設定を行った後に、「各時代を大観」する見方・考え方が働くような（様子、展開、つながり等）単元を貫く問いの設定を行う。

＊１
(1) 知識及び技能の評価例（B基準）を事前に設定してから単元構成を行う。

＊２
(2) 思考力、判断力、表現力等の評価例（B基準）を事前に設定してから単元構成を行う。

＊３
(3) 主体的に学習に取り組む態度の評価（B基準）については、生徒の気付きや課題意識などを読み取り評価する。

社会科学びの地図　(3) 中世の日本　　年　組　番　氏名

単元を貫く問い
中世社会の特色はどのようなものであり，どのように展開し近世へつながったと考えますか。

初発の考え

問いを解決するために
何を努力したり
どの様に調べたらよいか

問いの解決に
役立ちそうな
これまでの学び

＊１

小単元１
小単元の問い：武士はどのように成長していったのだろう。
・土地の権利を守る武士が職業として生まれた。
・武士が武士団と成長して，源氏と平氏が武士の棟梁となっていった。
・平氏は，日宋貿易を基盤として高い官職を独占した。
・源氏は御恩と奉公の主従関係で幕府と御家人を結び付け政権をつくった。
知　A・B・C
学習を振り返って気付いたこと
態　A・B・C

小単元２
小単元の問い：東アジアとの交流は社会にどのような影響を与えたのだろう。
・室町幕府は倭寇の取り締まりの代わりに日明貿易で財を成した。
・琉球の中継ぎ貿易に始まり明や朝鮮，東南アジアやアイヌとの交易ルートは東アジアの物流を生み出し，文化の交流が見られた。
知　A・B・C
学習を振り返って気付いたこと
態　A・B・C

小単元３
小単元の問い：なぜ，室町文化は多くの人々に広まり，現代につながっているのだろう。
・社会の安定により農業を中心とした諸産業が発達し，様々な職業が生まれた。
・畿内を中心に自治の仕組みが生まれた。
・禅宗の影響や成長した庶民の文化から，現代にもつながる日本的な美意識や生活様式をもつ文化が形成されていった。
・応仁の乱をきっかけに下克上が広まり，戦乱避けた守護大名により京都の文化が全国に広まっていった。
知　A・B・C
学習を振り返って気付いたこと
態　A・B・C

＊２

単元を貫く問いのまとめ（例）
土地を仲立ちとした主従関係を基に武家政権が成立し，その支配が広まった。南北朝の争乱ののちに室町幕府が成立し，世の中に一定の安定が見られた。それによりアジアとの貿易や文化の交流や諸産業の発達，都市や農村における自治的な仕組みが生まれた。応仁の乱の後は大名が力をつけるとともに，文化の広まりが見られた。
思　A・B・C

＊３

中世の社会の変化の学習を振り返り，そのつながりに着目して，
近世に大切になると思うキーワードを三つあげ，その理由を記述しよう。

① 文化・政治の担い手　② 外国との関係　③ お金

キーワードの理由　①担い手が、領地によって変化することや統一後の世でうつり変わることが予想される。
②南蛮人やペリーなどの外国の進出によって、日本に大きな影響あることが予想される。　③貿易で明銭が使われ、産業が発達したり、物に価値がついたりした。近世にも影響があったことが予想される。　態　A・B・C

図１　単元の「社会科学びの地図」

小単元１～３までのまとめの部分が単元の「知識及び技能」（**図１＊１**）の「評定に用いる評価」とした。「単元を貫く問いのまとめ」の部分を、この単元で育成すべき「思考力、判断力、表現力等」（**図１＊２**）の「評定に用いる評価」とした。「学習を振り返って気付いたこと」と「キーワードの理由」については「主体的に学習に取り組む態度」（**図１＊３**）の評定に用いる評価に活用することとした。

指導計画を作成する際には、レディネス調査等から分かる生徒の実態から、教師がそれぞれの評価について「B」評価の基準の具体例を設定し、「学習改善につなげる評価」に活用することとした。

この「単元の社会科学びの地図」を活用して生徒の実態に合わせて単元の構成を行うことで、指導計画と評価計画を作成するだけでなく、「B」評価の基準を作成することとなり、指導と評価の一体を図ることができる。

この作業を基に作成した単元の指導計画・評価計画は以下の通りになる。

⑵　単元の指導計画・評価計画（１３時間）

●「学習改善につなげる評価」　○「評定に用いる評価」

時程	学習活動等	評価の観点 知	評価の観点 思	評価の観点 態	評価規準等（評価方法）
導入（1時間）	単元を貫く問い 「中世社会の特色はどのようなものであり、どのように展開し近世へつながったと考えますか。」				
	・教科書や資料集、これまでの学習や小学校の学習を踏まえて、単元を貫く問いに対して考察し、「社会科学びの地図」に記入する。			●	●小学校での学習などを基に、単元を貫く問いに対する学習の見通しを立て、学習を通して明らかにしようとしている。（「社会科学びの地図」）
小単元１　武家政治の成立とユーラシアの交流 小単元の問い「武士はどのように成長していったのだろう。」　（４時間）					
小単元２　武家政治の展開と東アジアの動き 小単元の問い「東アジアとの交流は社会にどのような影響を与えたのだろう。」　（３時間）					
小単元３（4時間）	小単元３の問い「なぜ、室町文化は多くの人々に広まり、現代につながっているのだろう。」				
	①　第１時の課題「室町時代はどのような特色をもった文化が展開したのだろうか。」について関心をもち、単元の学習の見通しをもつ。			●	●室町時代の文化の特色について関心をもち、単元の学習の見通しをもっている。（「社会科学びの地図」）
	②　第２時の課題「室町時代はなぜ様々な職業が生まれたのだろうか。」について資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。 博学連携 埼玉県立歴史と民俗の博物館　板石塔婆等	●	●		●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。（観察） ●第２時の課題について、農業などの諸産業の発達の背景について考察し、文化と関連付け適切に表現している。（「社会科学びの地図」）
	③　第３時の課題「惣村や自治都市はどのように自治を行っていたのだろうか。」について資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。	●	●		●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。（観察） ●第３時の課題について、社会の変化の背景について考察し、文化と関連付け適切に表現している。（「社会科学びの地図」）
	④　第４時の課題「応仁の乱で人々はどのように生活を守ったのだろうか。」について資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。	●	●		●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。（観察） ●第４時の課題について、社会の変化の背景について考察し、文化と関連付け適切に表現している。（「社会科学びの地図」）
	これまでの学習内容を踏まえて、小単元３の問い「なぜ、室町文化は多くの人々に広まり、現代につながっているのだろう。」について考察し、「社会科学びの地図」に記入する。その後、単元を貫く問いとの関わりを確認する。 P40 指導計画作成の留意事項⑸	○	○	●	○「新たな文化の形成」について理解している。（「社会科学びの地図」） ○民衆の成長を背景とした社会や文化の形成に着目して、小単元の問いについて考察し、結果を表現している。（「社会科学びの地図」） ●自己の学習について振り返り、調整しようとしている。（「社会科学びの地図」）
まとめ（1時間）	・中世の日本の学習を踏まえ、これまで学習した時代との共通点や相違点に着目して、中世社会の変化について自分の考えを「単元の社会科学びの地図」にまとめる。		○		○中世社会の変化の様子について、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色などの他の時代との共通点や相違点に着目し、比較したり関連付けたりするなどして、多面的・多角的に考察し獲得した知識を活用して学習を振り返る中で、時代の特色を文章等でまとめている。（「社会科学びの地図」）
	・中世社会の変化の学習を振り返り、そのつながりに着目して、近世に大切になると思うキーワードを三つあげ、その理由を記述し「単元の社会科学びの地図」にまとめる。			○	○この単元における自身の学習の経緯について振り返り、中世社会の変化の様子から近世に向かう動きを上げるなど、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。（「社会科学びの地図」）

⑶　小単元の指導計画・評価計画

「単元の『社会科学びの地図』」（**図１**）を用いて指導計画・評価計画を設定したのち、小単元の計画についても単元と同様の手順で行う。以下のように、小単元３の「社会科学びの地図」（**図２**）を用いて小単元の指導計画・評価計画を作成する。

初めに、この小単元で育成したい資質・能力の中で「思考力、判断力、表現力等」について、指導計画作成時に設定した「産業の発達や社会の変化など自治の仕組みの成立に着目して、事象を相互に関連付けることを通して、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたこと」について「ｂ」評価の基準を「小単元３の問いのまとめ」として設定する。なお、小単元３の「社会科学びの地図」の評価は、小単元の学習課題について考察した結果を評価することとし、生徒の学習改善を促した後、「単元を貫く問いのまとめ」に結びつけていくものである。

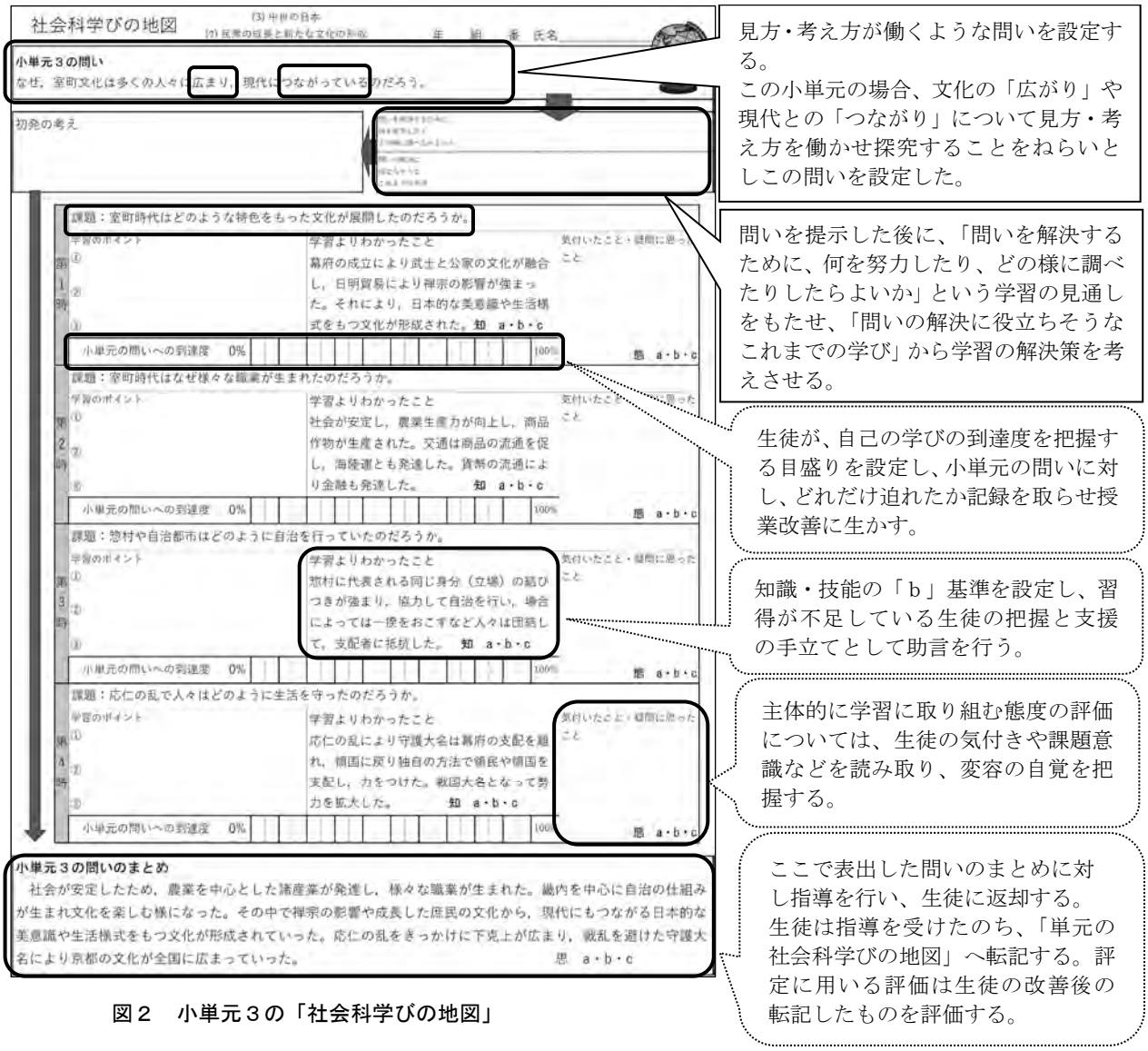


図２　小単元３の「社会科学びの地図」

次に、毎時の授業においては、この「学習よりわかったこと」を生徒が言語化できるよう学習活動（課題）を設定していく。そして、これらの学習活動を貫く問いの設定を行い、小単元を構成する。生徒は、小単元３の「社会科学びの地図」へ学習した内容を整理し、授業後に教師に提出する。教師は事前に作成した基準に照らし合わせ、評価と助言を行い生徒に返却する。

活用の際の留意点として、小単元の評価は、生徒の学習改善に生かすことを念頭におき、生徒の「見方・考え方」が働くような助言を行う。単元の評価は、生徒がこれまでの蓄積を生かせるよう支援を行い、事前に作成した基準に合わせて評価を実施し、評定に反映していく。

「社会科学びの地図」を用いて整理することで、生徒は初発の考えや学習活動を振り返り、自己の考えの変容を見取ることができる。また、生徒の学習改善につなげる評価をこまめに行っていくことにより、生徒の学習に対する理解だけでなく、教師の指導改善にも生かすことができる。

(4) 小単元３の第１時の指導案

ア　ねらい

室町時代の文化の特色について関心をもたせ、単元の学習の見通しをもたせる。

イ　展開

学習活動等	・指導上の留意点　観点具体の評価規準（評価方法）
1　現代に見られる室町文化に触れる。 P40 指導計画作成の留意事項(11)	・小学校で学習した資料を基に、現代に見られる室町時代の文化についてその特色を読み取らせ、発表し関心をもたせる。 ・問いの例「現在の文化と，どのような点が関連しているのだろうか 。」
本時の課題　室町時代はどのような特色をもった文化が展開したのだろうか。	
2　北山文化と東山文化について調べ、共通点について整理する。 P40 指導計画作成の留意事項(9)	・小単元３の「社会科学びの地図」と本時の学習プリントを配布し、本時の問いを確認する。 ・幕府の位置を確認し、武士と公家の文化の融合について理解させる。 ・書院造から、現代の住環境に関連のあるものを読み取らせる。（畳・床の間） ・問いの例「書院造りと現代の和室を比較すると，どのような共通点と相違点を見いだすことができるだろうか。」 ・禅宗様の影響と日明貿易について関連付ける。 ・衣・食・住の視点で現代にもみられる室町文化の影響を調べまとめさせる。 ・問いの例「室町時代の食事と現代の食事を比較すると，どのような共通点を見いだすことができるだろうか。」
3　庶民に広がった文化について資料を読み取り、現代とのつながりを確認する。 P40 指導計画作成の留意事項(6)	・農作業で行われた田楽と能を比較し、関連付ける ・問いの例「田楽と能の共通点に注目すると，どのような傾向が見いだせるだろうか。」 ・前の時代の庶民の文化と比較し、庶民に文化が広まった背景に関心をもたせる。 態　民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことに関心をもっている。（「社会科学びの地図」）（観察）
4　本時の学習を振り返り、まとめを小単元３の「社会科学びの地図」に記述する。	・本時の学習を振り返って、記述させる。 ・具体的な記述になるよう、時期、展開、変化、特色、背景などに着目させ表現を工夫させる。
本時のまとめ(例) 幕府が室町に置かれたことで武士と公家の文化の融合が見られた。また、民衆の成長を背景として新しい文化が生まれた。これらの日本的な美意識や生活様式をもった文化は、現代の生活にもつながっている。	
5　小単元の問いを確認する。	・小単元全体を通して考えていく問いについて意識させる。
小単元の問い　なぜ、室町文化は多くの人々に広まり、現代につながっているのだろう。	
6　小単元の問いについて何を学んだら解決できそうか見通しをもたせ、話し合い、発表する。	・小単元の問いに対する初発の考えを記述させる。 ・机間指導をして生徒の記述の傾向を把握し、代表的な記述を発表させる。 ・文化の担い手に着目させ、既習事項である武家政権やその中での人々の生活や小学校の既習事項から、室町時代の世の中の様子や人々の生活と関連付ける。 ・問いの例「室町文化の広がりやつながりは、どのような背景や原因があったのだろうか。」 ・ホワイトボードを用いて、話合いの結果を簡潔に記述させ掲示し、比較・分類をすることによって、学習の見通しをもたせる。 態　話合いを基に、問いを解決するために必要な学習について見通しをもつことができている。（「社会科学びの地図」）（観察）

＜事例３＞「起業」を柱にした単元の再構成と、思考力・判断力・表現力の育成をねらった事例
※本事例は、単元を通して習得した知識を活用し、見方・考え方を働かせて、「『起業』のための企画書」を作成する学習を通して、思考力・判断力・表現力を見取るための評価を具体化した実践である。
【内容のまとまり】　公民的分野　Ｂ私たちと経済　⑴ 市場の働きと経済
【単元名】　市場の働きと経済

1　単元名　市場の働きと経済

2　本単元を構成するにあたって

⑴　問いや発問の工夫

本事例は、主体的に社会に関わり、課題を追究できるようにする態度を育成できるよう、問いや発問を工夫している。

単元の導入では、「単元を貫く問い」として「地域に永く愛されるハンバーガーショップを開業し、経営するとしたら、何についてどんなことを考える必要があるだろう。」と設定している。

第一次・第二次では、毎時の学習課題を「なぜ？」「どのように？」の形で発問することで、「単元を貫く問い」を追究するために必要な基礎的な知識や考え方を習得させている。また、学習内容に合わせて「自分の店ならどうするだろうか」と問うことで主体的な課題追究を促している。さらに、学級全体を起業のためのチームとして意見交換することで、対話的な学びの機会も設けている。

単元のまとめでは、学習を通して習得した知識・技能を活用し、現代社会の見方・考え方を働かせて「起業のための企画書」として表現する時間を設定している。地理的分野Ｃ (4)「地域の在り方」で考察・構想した地域の課題などを踏まえ、「地域に愛される店」をコンセプトとしたさまざまな形態の起業を考えさせることで、社会参画の視点も培いたい。

⑵　観点別学習状況の評価の進め方の工夫

単元の指導計画・評価計画において、「学習改善につなげる評価（●)」と「評定に用いる評価（○)」、それぞれの評価規準と評価方法を位置付けている。

単元のまとめの場面では、レポート課題として「起業のための企画書」を作成する。ここでは、この場面での思考・判断・表現の観点における「評定に用いる評価」の具体的な評価方法について詳しく紹介している。

⑶　教材や教育環境の充実～地域人材の活用、博学連携、ＩＣＴの活用など～

本実践では、各企業がホームページ等で公開している企業の社会的責任（ＣＳＲ）の情報を活用したり、地域で活躍する店舗の経営者などをゲストティーチャーとして招く（または取材の様子を撮影した動画を見せる）など、地域人材との連携・協働を図ったりすることで、生徒が実生活と社会的事象との距離を縮め、自分ごととして問題解決を進めることができるようにしている。また、評価場面においても毎時間の導入場面で行う「前時の復習３問テスト」を「Google フォーム」等のＩＣＴを活用して作成し実施することで、「学習改善につなげる評価」を効率的に行うことができる。

3　単元の目標と評価規準（※目標は、解Ｐ142・143参照。）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、市場における価格の決まり方、生産や流通、金融などの仕組みや働きについて理解している。 ・勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神、消費者の権利、企業の社会的責任について理解している。	・「地域に永く愛されるハンバーガーショップを開業し、経営するとしたら、何についてどんなことを考える必要があるのか」を、「対立と合意」、「効率と公正」、「分業と交換」、「希少性」などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。	・市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

4　単元の指導計画・評価計画

※本事例は、一般的な学習内容の配列を大きく再構成し、学習内容に切実性や実社会との関係性をもたせることで主体的に課題を追究できるようようにしている。

●「学習改善につなげる評価」　○「評定に用いる評価」

次	学習活動等	評価の観点 知	評価の観点 思	評価の観点 態	評価規準（評価方法）
単元の導入（1時間）	【ねらい】市場の働きと経済に関する単元を貫く問いを設定し、予想を出し合い、学習計画を立て、課題解決への見通しをもたせる。 単元を貫く問い「地域に永く愛されるハンバーガーショップを開業し経営するとしたら、何についてどんなことを考える必要があるだろう。」				
	・身近な食品であるハンバーガーを例に「単元を貫く問い」を設定し、「価格をどのように設定したらいいのか」「原材料をどのように調達したらいいか」など、課題解決への見通しを立てる。 P40 指導計画作成の留意事項(1)(2)			●	●学習課題を自分ごととして予想を出し合い、学習計画を立てるなど、課題解決への見通しを立てている。(ワークシート・発言)
第一次（6時間）	【ねらい】市場経済の基本的な考え方、市場における価格の決まり方、生産や流通、金融などの仕組みや働きについて触れ、利潤の追求が基本にあることについて理解させる。				
	第１時の課題「何を目的に生産・販売するのだろう。」 ・某ハンバーガーショップの価格構成を例に、資本主義経済において企業は利潤を目的に生産活動を行うことを理解する。	●			●習得すべき内容を理解している。（３問テスト）
	第２時の課題「価格をどのように決定したらいいだろう。」 ・需要と供給に関係する図を読み取り、市場経済の働きについて理解する。	●			学習課題を「どのように？」や「なぜ？」の形で発問することで、「単元を貫く問い」を追究するために必要な基礎的な知識を習得させている。
	第３時の課題「開業資金をどのように集めたらいいだろう。」 ・企業の種類や形態などについて触れ、株式会社の仕組みについて理解する。	●			
	第４時の課題「経営拡大のための資金をどのように集めたらいいだろう。」 ・金融の働きに関する図を読み取り、主に銀行の仕組みや働きについて理解する。	●			第一次においては、利潤の追求に焦点をあてて学習をしているが、第二次において「本当にそれだけでいいのか？」と問うことで生徒の思考を揺さぶり、起業についてより多面的・多角的に捉えさせたい。
	第５時の課題「原材料をどのように調達したらいいだろう。」 ・市場の仕組みなどに関する図などを読み取り、流通の仕組みや働きを理解する。	●			
	第６時の課題「海外の原材料を輸入する際はどんなことを意識する必要があるだろう。」 ・新聞記事などを読み取り、為替（円高・円安）や関税の仕組みについて理解する。	●		●	●粘り強く学習に取り組んでいる。課題の解決を視野に学習に取り組んでいる。（発言・評価カード）
第二次（4時間）	【ねらい】勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神、消費者の権利などについて理解させ、利潤の追求だけではない企業の社会的責任とは何かについて多面的に考察させる。				
	第１時の課題「お客さまとトラブルになったらどうしよう。」 ・実際に起きた裁判を例に、契約や消費者の権利について触れ、経営上遵守すべき法令について理解する。 P40 指導計画作成の留意事項(9)	●			●習得すべき内容を理解している。（３問テスト）
	第２時の課題「従業員をどのように雇ったらいいだろう。」 ・実際に起きた労使問題を例に、労働者の権利や労働	●	●		●社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多

	組合の意味、現在の労働をめぐる諸問題について考察する。 第３時の課題「他店とどのように競争したらいいだろう。」 ・コマーシャルやクーポンなどの意味について触れるとともに、独占禁止法の意義について理解する。 第４時の課題「企業が果たすべき責任とは何だろう。」 ・さまざまな企業の社会的責任（ＣＳＲ）の事例について触れ、企業が社会の中でどのような役割を果たしているのか考察する。 渋沢栄一の「道徳経済合一」の考え方などを紹介したり、地域で活躍する地域で活躍する店舗の経営者などをゲストティーチャーとして招いたりするなどの工夫も考えられる。	● ● ●	●	●	面的・多角的に考察し、表現している。 （ワークシート） ●企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現している。 （ワークシート） ●粘り強く学習に取り組んでいる。課題の解決を視野に学習に取り組んでいる。（発言・評価カード）
単元のまとめ（２時間）	【ねらい】「単元を貫く問い」に戻り、個人や企業の経済活動における役割と責任、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について考察させる。また、単元の学習を振り返らせる。 ・ここまでの学習成果を基に、「地域に愛されるハンバーガーショップ起業の企画書」を表現する活動を通して、個人や企業の経済活動における役割と責任、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について考察する。 ・前半１時間は、少人数グループによる経営会議の形をとり、「セールスポイント」「原材料の調達」「従業員の採用方針や労働条件」「企業の社会的責任（ＣＳＲ）」について話合いを行う。後半１時間で、自分なりの企画書を仕上げる。 Ｐ40 指導計画作成の留意事項(6) 次の単元にあたる「Ｂ私たちと経済(2)国民の生活と政府の役割」の導入において、本単元との関わりで「ハンバーガーショップにはどのような税金が関わっているのだろう。」といった問いを設定することで指導計画を作成することも効果的である。	○	○	○	○「対立と合意」、「効率と公正」、「分業と交換」、「希少性」に着目して、妥当性や効果、実現可能性を踏まえ、企業の経済活動における役割と責任について、多面的・多角的に考察、表現している。 （レポート） ○単元の導入に立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見いだしている。（評価カード） ○市場経済の基本的な考え方など、習得すべき内容を理解している。 （ペーパーテスト）

5　指導と評価の実際

(1)　知識・技能

「知識・技能」については、市場の働きと経済に関する理解について評価する。

各次の学習の過程で理解の状況を見取り、「学習改善につなげる評価」を行う。毎時間の授業の終末場面で、「評価カード」に「本時の学習でわかったこと（問いに対する答え）」を文章表記させる。誤解があった場合は、次時の授業の冒頭で再度説明するなど、確実に理解させる手立てが必要となる。また毎時間の導入場面で「前時の復習３問テスト」（選択形式のテストなど）を「Google フォーム」等で作成し実施する。こうした指導・助言を行った上で、ペーパーテストを実施し、「評定に用いる評価」を行う。

(2)　思考・判断・表現

「思考・判断・表現」については、「現代社会の見方・考え方」を働かせ、習得した知識及び技能を活用しながら考察し、表現できているかを評価する。ここで留意すべきことは、考察にあたっ

て、「対立と合意」、「効率と公正」、「分業と交換」、「希少性」などの視点に着目しているかどうかを確認することである。第一～二次において上記の視点で「学習改善につなげる評価」を行い、生徒に必要な指導や助言をした上で、単元のまとめで「評定に用いる評価」を行う。

次の評価票は、「単元を貫く問い」に対するレポートを評価する際の基準を示している。レポートは①～④の４項目で構成し、それぞれの内容に対し３段階で評価する。各項目の合計が「評定に用いる評価」の資料となる。

①　「地域に永く愛される店」の具体的な方策（セールスポイント）について		
A	B	C
B 基準を満たした上で、 □実現可能性の高い方策（セールスポイント）になっている。 □強い意志やオリジナリティが感じられる方策だが、より多くの人が納得する妥当性の高い方策になっている。	□経営者の視点から、「地域に永く愛されるための方策（セールスポイント）」を具体的に説明している。 □習得した知識を活用して、提案の根拠を示している。	□「地域に永く愛される店」がどのようなものかつかみきれず、説明が不完全である。 □習得した知識を活用していない。提案の根拠を示していない。
②　看板メニュー開発と原材料の調達の仕方について		
A	B	C
B 基準を満たした上で、起業と経営をより多面的・多角的にとらえ、 □実現可能性の高いメニュー開発、原材料の調達の仕方を具体的に説明している。 □地域の実態や課題に応じたメニュー開発、原材料の調達の仕方を具体的に説明している。	□「セールスポイント」との関連性が見られる。 □「希少性」に着目して、オリジナリティのあるメニュー開発がなされている。 □習得した知識を活用して、原材料の調達の仕方を説明している。	□「セールスポイント」との一貫性・関連性があやふやで、説得力に欠ける。 □オリジナリティのあるメニュー開発がなされていない。 □習得した知識を活用していない。原材料の調達の仕方を説明していない。
③　従業員の雇い方について（基準は②と同じ）		
A	B	C
④　ＣＳＲの具体的な方法について（基準は②と同じ）		
A	B	C

以下は、「①『地域に永く愛される店』の具体的な方策（セールスポイント）について」の生徒のレポートの例である。例１は基準「B」を満たす内容とその根拠を、例２は基準「A」を満たす内容とその根拠をそれぞれ示している。

例１：評価の基準「B」を満たす内容の例

他のハンバーガーチェーンにはないようなオリジナルのメニューを作ることで、多くのお客さんが来て、愛される店になると考えた。また、商品の値段を下げたほうが安さをうりにしてお客さんが来てくれるので、外国産を多く使って、材料費をおさえたほうが愛されると考えた。

第一次で習得した知識（市場の仕組みなど）を活用して、具体策が述べられている。

第二次で学習した「現代社会の見方・考え方」（効率）を働かせているが、企業の社会的責任について述べられていない。

例２：評価の基準「A」を満たす内容の例

「地域に永く愛される」ためには利益ばかりを求めずに関係する法律をしっかり守ったり、安全な商品を作ったり、地元の原材料を使ったり、地域の人が働きやすい職場にしたりするなど、様々な形で地域に貢献できるような工夫が必要だと思った。

第二次で習得した知識（雇用と労働条件の改善や消費者の権利、関係法令の遵守など）を活用し、「現代社会の見方・考え方」（公正など）を働かせ、実現可能性も踏まえて具体策を述べている。

⑶　主体的に学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」については、「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」と「課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度」が評価の対象となる。とりわけ後者については、公民的分野特有の内容であり、評価規準を明確にしつつ、その方法についても吟味する必要がある。以下、「学習改善につなげる評価」「評定に用いる評価」のそれぞれの場面と方法について整理している。

	学習改善につなげる評価	評定に用いる評価
自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況	授業の終末場面で、「評価カード」に「思ったこと」を文章表記させ、単元を貫く問いに関連して新たな気付きや疑問を挙げさせることで見取り、適切な助言を行う。	単元の導入に立てた見通しを踏まえて自己の学習を振り返らせ、次の学習や生活に生かしたいことなどについて記述された評価カードを基に行う。
課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度	単元の導入における課題解決に向けて見通しをもたせる場面で、課題解決のためにどんなことを学ぶ必要があるか考えている様子を見取り、適切な助言を行う。	単元のまとめにおいて、単元の学習後も問い続けていきたいこと及びその社会的意義についての記述などを基に行う。

第４　社会科における学習評価の総括例　　※詳細はＰ７参照

１　単元における観点ごとの評価の総括例

評価については、まず、単元の目標と評価規準を作成し、指導と評価の計画を立てる。これに沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善を図りながら、集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A、B、C）を行っていく。

観点ごとの評価の総括の方法については、中項目の学習の終わりや学期の終わりなど、ある程度長い区切りの中で評価することが適当であるとされている。単元における観点ごとの評価の総括は、下表のように行うことが考えられる。

表中の（●）は「学習改善につなげる評価」であり、（○）は「評定に用いる評価」である。

次／観点	単元の導入	第１次	第２次	第３次	第４次	単元のまとめ	単元の観点別評価
知・技		● ○25%	● ○25%	● ○25%	● ○25%		A～C
思・判・表		●	●	●	●	○100%	A～C
態度	●			●		○100%	A～C

「知識・技能」については、第１次から第４次までの各次の評価結果をバランスよく重視することとして例示した。また、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」については、単元のまとめにおいて行う評価結果を重視することとして例示した。これは、単元のまとめの学習場面における評価結果が、継続的に指導を積み重ねた結果の学習状況であると考えられるからである。「学習改善につなげる評価（●）」については、表中の評価場面に限らず、生徒の学習状況を把握して適宜実施し、生徒にフィードバックして資質・能力の育成を図るようにする。

２　学期末及び学年末における観点ごとの評価の総括例

観点別学習状況の評価の評定への総括は、学期末や学年末などに行われることが多い。学年末に評定へ総括する場合には、学期末に総括した評定の結果を基にする方法や、学年末に観点ごとに総括した結果を基にする方法が考えられる。

総括の考え方や方法については、教師間で共通理解を図り、一貫性のある説明ができるようにすることが大切である。また、学習評価の方針などを年度当初や必要な時期に生徒や保護者に説明するとともに、学習評価の妥当性や信頼性を高めるよう随時、見直しを図るようにする。